

平成 30 年度 ソフィア 1月号

でも、百はある。

子どもには百通りある。

子どもには百の言葉 百の手 百の考え 百の考え方

遊び方や話し方 百いつでも百の聞き方 驚き方、愛し方

歌ったり、理解するのに百の喜び

発見するのに百の世界 発明するのに百の世界

夢見るのに百の世界がある 子どもには百の言葉がある

(それからもっともっと)

けれど九十九は奪われる。

学校や文化が 頭と体をバラバラにする。

そして手を使わずに考えなさい 頭をつかわずにやりなさい

話さずに聞きなさい ふざけずに理解しなさい

愛したり驚いたり復活祭とクリスマスだけ

そして子どもに言う 目の前にある世界を発見しなさい そして百のうち

九十九を奪ってしまう。 そして子どもに言う 遊びと仕事 現実と空想

科学と想像 空と大地 道理と夢は一緒にならないものだ。

つまり 百なんか無いと言う 子どもは言う でも百はある。

ローリス・マラグッツィ レッジョエミリア保育実践記録より

こどもの可能性をつまみ食いしない大人の集団であり、子どもの気持ちに共感し、保護者の思いに寄り添えるソフィアの保育でありたいと年頭にあたり強く思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

ソフィア 職員一同